

**2024年7月6日(土曜日) アレキサンドリアの視察**

2005年以来閉鎖されていたグレコローマン博物館が、昨年10月全面改装を終えて再オープンしたこともあり、久しぶりにアレキサンドリアの視察を行いました。

カイロ市内の道路網は近年かなり整備が進み、カイロ／アレキサンドリアの砂漠道路も年々道幅が広がって路面状況も良くなっていますが、平日夕方などはやはりカイロ市内の移動に時間がかかります。ギザのホテル／アレキサンドリアの観光地の移動には片道3時間30分(休憩時間を含む)、ダウンタウンのホテルが出発・帰着場所の場合は、さらに30分～1時間かかります。

各開館時間は季節や諸事情により変更になることがあるため、必要に応じて再確認をお願いします。

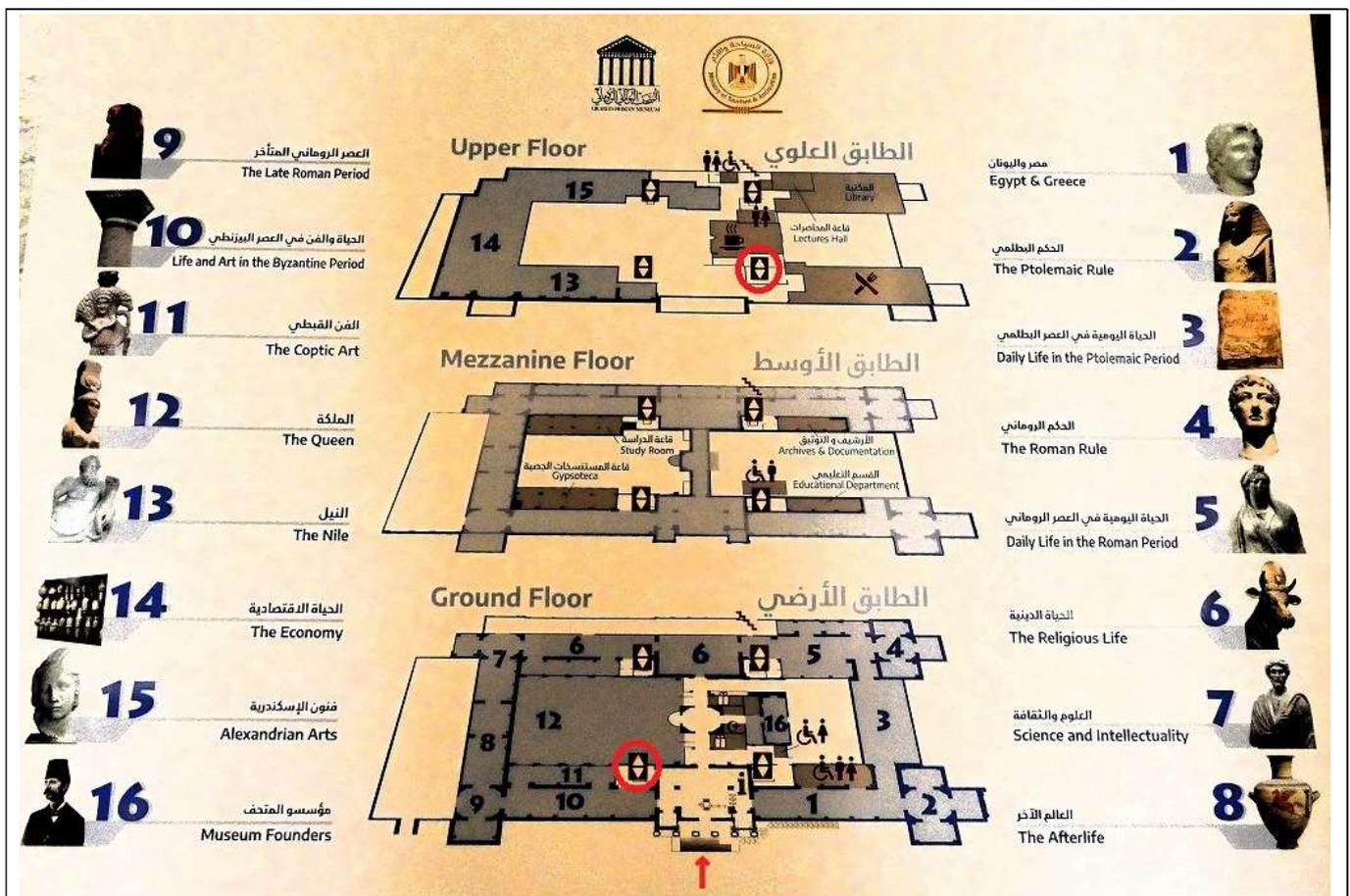
**1) グレコローマン博物館**

開館時間 9:00～17:00

中2階と2階部分を増築したため展示スペースがかなり広くなり、約1万点が展示されるようになりました。私たちの感覚としては、自由時間を含めて1.5時間ほどお取りいただくのが望ましいように思えます。

新たに一般公開された物もたくさんありますが、2005年の時点でアレキサンドリア図書館内の考古学博物館に移され、こちらに戻ってきていない遺物もあります。

スマートフォン、コンパクトデジカメは無料で撮影可能(フラッシュ禁止)。高性能のカメラ(解像度で持込可能かどうかを決めるとのこと。一眼レフはおそらく止められます)や大きなバッグは、クロークに預けるよう指示されます。



以前の博物館はフロア図の1階部分のみ。中2階は運営・研究関連のフロアのため、観光客は入れない。入口(地図下部の赤↑)から入って右側に進み、1～11まで見学。エレベーターや階段(赤丸の所)で2階に上がる。2階の13～15の順に見学し、1階に戻るとするのが基本の順路。1階12番のエリアは中庭。トイレは個室の数は多くないが、各フロアに男女と車椅子用がある。1階に小さな土産店、2階にカフェとレストラン、中庭にもカフェがある。



正面入口右側にチケット売場。アプローチは階段以外にスロープも有り。観光バスの乗降はカメラマンの背後にあるロータリーで。



入口ホールと自動改札。チケットのバーコード部分を自動改札の丸いガラスの部分にかざして入場。



ホール1。広々とした館内。各部屋に係員が配備されているので、遺物やショーケースに触れないよう、ご注意を。



アレキサンダー大王頭部。この横に別の2点、2階に1点、少なくとも4点は展示されている。



ホール2。プトレマイオスの統治者の部屋。正面中央に3点置かれている展示物は、右からクレオパトラ7世、アントニウス、二人の間に生まれた双子の像。



左の写真に写っている、クレオパトラ7世像。



ベレニケ2世(プトレマイオス3世妃)のモザイク。非常に小さいテッセラを使用し、複雑な絵柄が表現されている。



ホール4にあるアウグストゥス(オクタビアン)頭部。他にハドリアヌス帝やマルクス・アウレリアス帝などの像があるが、シーザー頭部は図書館内の考古学博物館に展示されたまま。グレコローマン博物館には戻されていない。



タナグラ人形。様々な衣装や髪形などが表現されており、当時の女性たちのファッションがよくわかる。



ローマ時代のトリクリウム(ダイニングルーム)。その左奥は当時の室内の様子を復元したもの。



セラピス神像。プトレマイオス1世が推し進めたエジプトとギリシャの習合的な神。



セラピスの化身、アピス神像。ポンペイの柱の所にあった、一番大きなセラピス神殿の地下至聖所から出土。



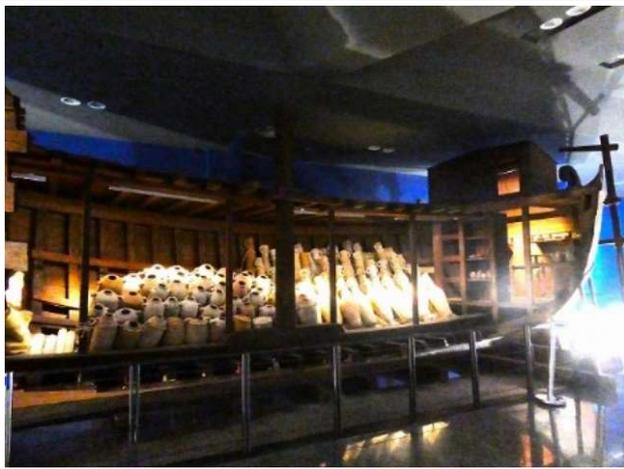
جزء من أفرز مساري  
 منحوت من الحجر الجيري في القرنين الرابع والخامس الميلاديين. تم اكتشافه في مدينة أسيوط في مصر عام 1897. وهو جزء من أفرز مساري، وهو نوع من الأفرز الذي كان يستخدم في الديكور الداخلي للمباني السكنية. الأفرز هو نوع من الفن الشعبي الذي كان يمارسه الفلاحون في مصر القديمة. الأفرز هو نوع من الفن الشعبي الذي كان يمارسه الفلاحون في مصر القديمة. الأفرز هو نوع من الفن الشعبي الذي كان يمارسه الفلاحون في مصر القديمة.

A Fragment of an Architectural Frieze  
 The figure depicts two seated women holding a basket, possibly representing a religious or domestic scene.

ホール11、コプト時代の部屋。レリーフ、コプト織、修道院にあった壁画などが展示されている。



2階の展示ホール13～14のあたりにはナイルに関係したモザイクや彫像、人物像、柱頭などが置かれている。



ホール14。交易船の復元モデル。ワインや油などが貯蔵された壺類を積んでいる。



アレキサンダー大王からローマ時代までのコインの数々。旧博物館にはクレオパトラ7世の横顔が描かれたコインがあったが、残念ながら現在は展示されていない。



中庭。正面奥の像は1968年カイトベイ城塞近くの海底から引き揚げられたもの。プトレマイオス朝の女王あるいは女神像と考えられている。カフェも設けられている。



2階のレストラン。グループの場合、buffetの昼食も提供可(事前予約が必要)。飲物のみの利用も可能。

**2) ポンペイの柱**

開館時間 9:00~17:00



エリアに入ってすぐに柱の方を見ると、崖近くはネットで囲われている。このあたりからは、きれいな写真を撮りづらい。工事がいつまで続くのかは不明。



左側に進み、遊歩道で上まで行くと、ネットに邪魔されずにきれいな写真が撮影可能。木製の遊歩道の一部には破損個所があったので注意を。

**3) コムエルシュカーファのカタコンベ**

開館時間 9:00~17:00

現在、エリアの入口やチケット売場などを新しくする工事を行っています。カタコンベの見学自体には全く影響はありません。写真がありませんが、地下に降りてゆく螺旋階段に新しく木製の階段が設置されました。以前は滑りやすかったので、これで上り下りが楽になりました。写真撮影は可能。



メインの埋葬室。竖穴の地下水も全て排水され、現在は地下2階部分まで入場可能。



Tigrane Pasha 通りから移築された墓。小さいが壁画が色鮮やかに残っている。

**4) カイトベイ城塞**

開館時間 9:00~20:00



現在、外壁の修復工事を行っているため、城塞正面部分(右側の写真)に足場が組まれている。